



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

歯科治療をより多くの患者さんに受けていただくために

歯科麻酔科 科長 飯島 毅彦

本年4月1日付で昭和大学歯学部歯科麻酔科教授を拝命しました飯島毅彦と申します。

私は昭和58年に東京医科歯科大学歯学部を卒業、大学院を修了後、米国、ドイツにて研究の修業を積み、帰国後は杏林大学医学部麻酔科に勤務しました。これまで19年にわたり、医学部学生、研修医、麻酔科医の教育、研究、臨床を指導してきました。このたび縁あって、私の本来の専門である歯科麻酔を指導していくことになりました。地域の歯科医師会の先生方、地域の歯科患者の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

麻酔科の役割

これまでは簡単な検査の麻酔から大規模な先進医療の手術麻酔など、さまざまな医療の現場を見てまいりました。医療は高度に専門分化しているために時には見方が専門に偏りすぎて患者さんの全体像が見えなくなることがあります。麻酔科とは病院の中では「中央部門」として活動しています。特定の疾患を対象とした専門分野を持たない代わりに患者さんの全体像を把握する診療科です。その患者さんにとって最善の「周術期」医療を提供することを業務としています。「周術期」管理というのは、患者さんが安心して安全に手術を受けられるように全身状態を把握し、手術中には痛みをとり、手術後には一日も早く元の生活に戻るようコーディネイトすることです。高齢化が進んでいるためにさまざまな合併症を持っている患者さんが手術を受けようになっています。そのような患者さんが安全に心地よく手術や治療を受けられるようにするのが麻酔科の役目なのです。

より多くの人に歯科治療を

歯科を訪れる患者さんは、痛み、食事の困難、

顔貌の悩みなど様々な問題を抱えて来院されます。食べるという行為は、健康な生命を維持するための基本です。医療は人々の健康を維持することを目的としていますから、ちゃんと食べることができるように専門的な技術と知識で対応する歯科は医療の根本です。日々の診療に誇りを持ってあたって行きたいと思います。そのなかで歯科の麻酔は、通常の方法では対処できない口腔の疾患や、あるいは患者さん側の問題として歯科治療が怖くて受けられない人などを歯科の治療に導いていく役割を担っています。麻酔の技術をもって、歯科治療や口腔外科の診療をより多くの人に受けていただくための専門家が歯科麻酔科医です。



広い連携を

このように歯科麻酔はあくまで中央部門であり、それ自身で成り立つものではありません。院内の各科との連携や病院外とも連携を深めて歯科診療をより多くの方々に受けていただくようにしていく必要があります。これまで長年、医科の病院の麻酔科に勤務してきましたが、手術を受ける患者さんの多くは口腔内の状態に問題がありました。どちらが先かはわかりませんが、口腔の健康と全身疾患はやはり関係のあるものと実感してきました。口腔衛生を広め、多くの人々が健康に過ごせるように歯科麻酔という立場から貢献していきたいと思います。地域の皆さんの健康増進には歯科医師会の先生方との連携が大変重要です。

どうぞ病院内外の各先生方のご指導とご協力を賜れますよう何卒よろしくお願いいたします。

インプラントセンター長に就任して

本年4月1日より本学歯科病院インプラントセンターのセンター長を拝命しました。平成21年の4月に開設後、同センターの礎を築かれた初代センター長の岡野友宏病院長から引き継がせて頂きますので、大役に身が引き締まる思いです。本学のインプラントセンターは現在、歯科放射線科、口腔外科、高齢者歯科、歯科補綴科ならびに歯周病科からの登録医34名が連携診療をすることで運営されており、このような多数の専門各科が協同協調している診療体制は、他の歯科大学にはない誇るべきことです。

インプラント治療は歯科医学の中でも包括的診療の要素が強いことから、複数の診療分野の知識、経験と協力が不可欠です。今後も本学独自のインプラントセンターを充実させ、本邦屈指の診療施設と発展させるために、“Heart, Art and Science”を求めて、インプラント治療にあたっていこうと思います。

Heartとは患者さんを思いやる優しい心と、医療

人としての自負心を持つことです。Artとは優れた医療技術を持ち、常に技術の向上に努めることです。Scienceとは客観的事実に裏付けられた歯科医学と、先進性に富む歯科医学を探究することです。

今後とも歯科病院内の多数の診療各科の先生方や放射線技師、看護師、衛生士、技工士ならびに事務職員の方々の温かい御支援と御協力を頂きまして、インプラントセンターをより一層、発展させたいと思いますので、どうか宜しく願い申し上げます。

(インプラントセンター センター長
歯科補綴科 准教授 尾関 雅彦)



総合内科に就任して

この度、前任の田崎医師の後任として、4月1日付けで総合内科に赴任いたしました奥田健太郎と申します。赴任前は昭和大学病院の呼吸器アレルギー内科で臨床業務をおこなっておりました。歯科病院にお世話になり、およそ1カ月半が経ちました。最初に比べると、こちらの仕事もある程度慣れてまいりましたが、それでも時々、以前と少し違う感覚を感じる場合があります。内科医は多くの患者さんと対応します。ある時は外来で、またある時は入院された患者さんと対話し、自分で判断できる事は説明し、他領域の自分で判断し難い部分は他の診療科に診察を依頼する、たとえば視力が弱くなったと感じたら眼科にお願いし、膝の痛みを感じたら整形外科へ、等々…。しかし総合的な判断と説明は自らお話することがほとんどでした。

今回こちらに赴任して感じたのは、歯科の先生方がコンサルトを求めてこられるケースが多いということ、つまり以前とは逆の立場になったことです。歯科の先生方は時に私の答えを基に総合的な判

断をされ、患者さんに説明する事があるのだろう、と思います。そういう面では果たして求められている答えを伝えられているかどうかを考えることもあります。まだまだ伝えきれてない部分もあると思いますので、今後とも歯科医療の考え方を感じ取って行きながら、総合内科としての職務を全うしていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(総合内科 奥田 健太郎)



中央放射線室技師長に就任して

この度、定年退職されました舟橋技師長の後任として4月1日付けで中央放射線室技師長に着任いたしました石田と申します。宜しくお願ひいたします。私の病院勤務経歴は昭和63年に昭和大学病院に入職し、一般撮影、CT・MRI、血管造影、核医学、検像と各部署をローテーションしながら統括放射線技術部の方針に基づき放射線検査の質の向上に努めてまいりました。統括放射線技術部は昭和大学の8つの附属病院と一つのクリニックで総勢125名の診療放射線技師が日常業務にあたっております。院内研修会を始め院外研修会にも積極的に参加し関連学会のガイドラインや業務指針に則り、医療水準に基づいた業務の遂行を行っております。新たな、歯科病院という新天地でも「至誠一

貫」の原点を大切に、岡野病院長の下で、スタッフともども一丸となって、患者さんの為になにができるのかを常に考えながら、存分に働こうと思っております。まずは身の回りを綺麗に5S活動からはじめてまいります。また、平成23年度の事業として電子カルテの導入、その次のPACS(画像情報のやりとり)化と歯科病院がデジタル化していくための大事業にも皆様と協力しあいながら、積極的に取り組んでまいります。何卒、宜しくお願ひ申し上げます。(中央放射線室 技師長 石田 秀樹)



事務長に就任して

このたび、4月1日付けで昭和大学歯科病院事務長を拝命いたしました、沼尻克己と申します。私はどうも一年中日焼け顔をしているせいか、よく「何か運動をしているのですか」と聞かれます。最近では体を動かすことも随分と減り、ゴルフで年に3~4回コースに出る程度で、では「ネオン焼け?」と言っても、お酒は嫌いではありませんがネオン街に出かけることもそうそうなくなり、結局のところ「地黒」という結論に落ち着くわけです。

そんな私は、前任の昭和大学病院では当時の赤堀事務長(現教務部長)の強いリーダーシップの下、昭和大学病院プレストセンター開設等数々の事業実施に関わらせていただきました。僅か2年足らずの期間ではありましたが、事務長の「理想的な大学病院にするためには」今何が必要なのか!? 医療の質の向上、経済的基盤の確立、それもこれも病院の改善意識の向上が重要であり、それを推進し、担保されなければ病院の赤字体質からの脱却はあり得ないし、医療の質の向上も望めないという確固たる信念があったからこそ、事務部一丸となって業務に取り組むことができたのだと思っております。本当にあっという間の2年間であり、また「リーダーシップとは」を学ばせていただいた大変充実した2年間でもありました。

私は、昭和大学に長くお世話になっておりますが歯学部及び歯科病院で仕事をさせていただくのは今回が初めてで、歯科病院に異動が決まった際、自分に何ができるのだろうかと不安に駆られながら着任の日を迎えたのを覚えております。そんな不安も1カ月が過ぎ、岡野病院長をはじめとする病院幹部の方々の「昭和大学歯科病院を日本一にする」思いと、熱意に触れるとともに「不安」が、皆で力を合わせればきっと「できる」に変わってまいりました。まずは今年度の歯科病院の目標「医療安全の推進」「患者中心の医療を目指す」「効率的な医療の実践」を達成するために、個々が立てた目標・解決策に向かい、一つ一つしっかり達成すべく努力していくことが重要と考えます。そんな積み重ねが患者さんや地域の歯科医師会の先生方の信頼を得ることとなり、「昭和大学歯科病院を日本一にする」のではないのでしょうか。

そうはいつでも、なにぶん歯科については素人の事務長です。皆様のご指導とご協力なくしては本職を務めることはできません。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

(事務長 沼尻 克己)



歯の衛生週間(6月4日～6月10日)

毎年、歯の衛生週間に患者様に向けて歯科病院の1階受付に設置してあるテレビを使い「お口の健康」のための情報発信をしています。今年のテーマは「入れ歯(義歯)の取り扱いと清掃方法」についてです。作成は歯科衛生士業務委員会が中心となり、テーマ設定から放映の準備まで行っています。また、同じテーマのリーフレットも作成し「健口フェスティバル」等でお配りしています。

(歯科衛生士室 士長 日山 邦枝)



1階 受付に設置してある掲示板用テレビ(右側)

お知らせしている内容の一部です

毎年、6月4日～6月10日は『歯の衛生週間』です

今回は“入れ歯(義歯)の取り扱いと清掃方法”についてです

入れ歯(義歯)にも歯と同じように汚れが付きま

汚れの種類

- 食べかす
- 歯垢
- 歯石
- たばこのヤニ
- 茶しぶ

汚れによる影響

- 口臭
- 着色
- 歯石
- むし歯
- 歯周病
- 口内炎

入れ歯(義歯)の清掃用具

入れ歯専用ブラシ

入れ歯洗浄剤

※入れ歯洗浄剤を使用する前に入れ歯専用ブラシで磨きましょう

- 入れ歯の材質に合わせて選択しましょう
- 使用回数などは取り扱い説明書を確認して下さい

入れ歯専用ブラシで磨いて汚れを落とす

入れ歯(義歯)の清掃時の注意点

落とすと割れやすいので水の張った容器の上で磨きましょう

はみがき粉は研磨剤が入っているため使用しない

入れ歯洗浄剤を使用した後は水でよく洗い洗浄剤を流しましょう

残っている歯も忘れずに磨きましょう

以下のような装置も入れ歯(義歯)と同様お口から取りはずして清掃しましょう

《取りはずし式装置の例》

スプリント

保定装置

『入れ歯(義歯)を快適に使うために』

定期的な調整が必要です。自分で修理せずこのような場合は病院に受診しましょう。

- こわれた
- 歯ぐきに当たって痛む
- ガタガタする(安定しない)

取りはずしが難しい

昭和大学歯科病院 歯科衛生士室

健口フェスティバルのお知らせ

今年度は、7月9日(土)に健口フェスティバルを開催することとなりました。公開講座・院内コンサート・技工体験を企画しておりますので、地域の皆様方をはじめ、たくさんの方々のご来場をお待ちしております。



第14回 昭和大学歯科病院公開講座

暮らしと健康 ～健やかな生活は「健口」から～
総合司会／井上 美津子

(昭和大学歯学部小児成育歯科学教授)

①「どうして放射線被曝が危険なのか？」

岡野 友宏

(昭和大学歯科病院長、歯科放射線学教室教授)

②「歯無しにならない話」

佐野 晴男

(昭和大学歯科病院副院長、総合歯科教授)

③「歯みがきの仕方と健口体操」

松原 こずえ(昭和大学歯科病院歯科衛生士)

7月9日(土)午後1時～午後2時45分

昭和大学歯科病院 6階 臨床講堂

(管理課)

編集後記

大震災から二か月半が過ぎ、復興の兆しのニュースを見聞きする度に日本頑張れという思いを強く感じるのは皆様共通の感覚だと思います。昭和大学は3月号4月号でもお知らせしましたように被災4日後より岩手県山田町にて医歯薬保健医療学部の総合チームで医療支援にあたりました。その後もボランティアで学生メンバーが支援活動を行ったり、5月は本学歯学部OBのチームが被災地で歯科診療支援を行いました。

また歯科病院の支援のもと口腔リハビリテーション科では摂食・嚥下のチャリティー講習会の開催を予定しております。復興までにはまだまだ支援を継続して行っていかなければならないと思います。歯科病院一階に義援金募金箱を設置しておりますので御協力頂けましたら幸いです。

(K.T)